

光る未来に全ツツパ。③

『スロットと恋の波理論(勘違い)』

Youtubeにアップされた初実戦動画。

タイトルは「奇跡」スロカップル、スマスロ北斗で無想転生引いた結果WW編集も何もされてない、ミサキがそのまま上げただけの素人感MAX動画。

「絶対バズるって……思ったんやけどなあ……」

再生数、17回。

「いや、少なくて」

公開から三日。通知音が鳴るたびにスマホを開いてた俺、無言でスマホを閉じる。

「ま、最初はこんなもんやろ」

「いや、全然バズるやつじゃないかったやん」

ミサキ、またポテト食ってる。

俺はあれから三日間家で寝てばっかだったから、今日もドンキフードコートに集合してた。

「一応コメントも来てるよ」

ミサキがスマホ画面を見せてくる。

【カップル感ゼロW】

【どっちも地味すぎ】

【もっとイチャつけや】

……クソみてえなコメントばっかじゃねえか。

「イチャつけて……無理に決まってるんだろ」

「……やる気ないんやったら、やめる？」
「や、やるよーやりますよー」

心の中で、俺は叫んでいた。

やばい、ミサキが完全に主導権握ってる……！

翌日。

「パワースロット松阪店」、再び。

ミサキが持ってきたカンペには、こう書かれていた。

【カップル感を出すためのポイント】

●タイチがミサキの手を握る

●二人で目を合わせて笑う

●「ミサキがいると勝てる」と言う

「は？ 罰ゲームかよ、これ」

俺は思わずカンペを丸めそうになる。

「コメントで求められとるんやから、やるしかないやろ」

「……マジで言うんのか？」

ミサキ、真顔。

くっそ……。でも、俺は……負けやんぞ。これも全ツツパの道や……！

この日、二人が選んだ機種は——「スマスロマギアレコード」魔法少女まどか☆マギカ外伝」。

「お、おい……」

「なに？」
「……これ、オタクっぽくない？」

「カップルで打つんやったら、こういう萌え系の方がコメント付きやすいって、カナが言うとな」

カナ——ミサキの大学の知り合いで、Youtube運営を手伝ってくれてるビジネス女子。あいつ、絶対俺らを金儲けの駒くらいにしか思ってるねえ。

「うわ、キモ……」

「文句言わずに打って」

打ち始めて五分。

隣の台に座るギャルが気になり始めた。

黒髪ロング、マスク、ゆるダボスウェット。

ギャルっていうより、地味系量産型っぽいけど——なぜか、目が離せない。

「……最近どう？」

また、やつちまった。

「……は？」

冷めた目。スルー。完全無視。

でも、俺は気付いてしまったんだ。この女こそ、運命の女(ヒト)じゃねえか……ってな。

その瞬間、俺の脳内に「ある理論」が降りてきた。名付けて——「恋とスロットの波理論」。スロットは波がある。恋も、きつと同じ。今はスルーされても、また波が来れば当たる。追い続ければ、きつと……！

「タイチ、聞いてる？」

ハッと振り返ると、ミサキが腕を組んで立っていた。

「……また、ナンパ？」

「いや、違えし。これは、波理論」

「は？」

「スロットと一緒になんよ、ミサキ。今は外れてるけど、そのうち当たる波が来るんよ」

「……はあ？」

ミサキ、呆れ顔。

ポケットから、スマホを取り出して、動画を止める。

「今日、もうやるわ」

「え、なんてえ！」

「……やつは無理やわ、あんたとカップルとか」

そう言い捨てて、ミサキは出口へ向かった。

俺は、振り返る。

隣の地味ギャル、あいつ、もうおらんやん。波理論……失敗、か？

いや、違う違う。

俺は、まだ打ち始めたばかりだ。

人生も、恋も、スロットも。全部——波待ちだろ？

「……明日こそ、当てたる」

